



陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2026年4-6月号

Vol.73

支援者の皆様へ

支援者の皆様、いつもお祈りとご支援を心より感謝いたします。

新しい年度が始まり次女のななみが小学校に入学したことで、私たち家族にも変化がありました。5年間続けてきた幼稚園の送り迎えがなくなったことで生活リズムが変わり、これまでしてきた FVI や「支える会」の事務などの働きに加え、妻の純子は主に在宅でできる新しい仕事に導かれて働き始めました。3年生の長女と1年生の次女は毎日、一緒に小学校に登校していきます。

「キリスト教とは一連の教義について名でもなければ宗教組織の名前でもない。キリスト教とはイエスとともに歩む旅について名前なのだ」と米国の神学者スタンリー・ハワーワスは書いています（『主の祈り』）。魂の故郷に至る私たちの旅には山もあり谷もあり、悪天もあれば好天もあります。「旅の道連れ」の面々も入れ替わります。長く連れ添う人、途中でいったん分かれたけれどまた再会する人など、様々な出会いがあります。5月12日に私たち夫婦は結婚14年目の記念日を祝いました。この旅の果実は「目的地に着くこと」ではなく「旅の過程でイエスに似せられていくこと」であり「旅の過程の味わいのひとつひとつそれ自体」だと思っています。支援者の皆様もまた、この「喜びの旅路」に加わってくださり、共に歩いてくださっていることを心から感謝しています。



様々な場所での礼拝説教やセミナーの機会

「福音的 LGBTQ+アライ」を名乗り始めてから奉仕させていただける場所や機会は随分と減りましたが、それを承知のうえで招き続けてくださる教会や場所もあるのは感謝なことです。渋谷区の幡ヶ谷バプテスト教会（バプテスト連盟）ではこの2年以上、隔月で説教させていただいていますし、5月末に

は単立のシオンの群教会の礼拝で説教の奉仕をさせていただきました。また今年3月7日には「Life コネクト」という集会で『もしイエス様が市長だったら』の内容について話させていただきました。

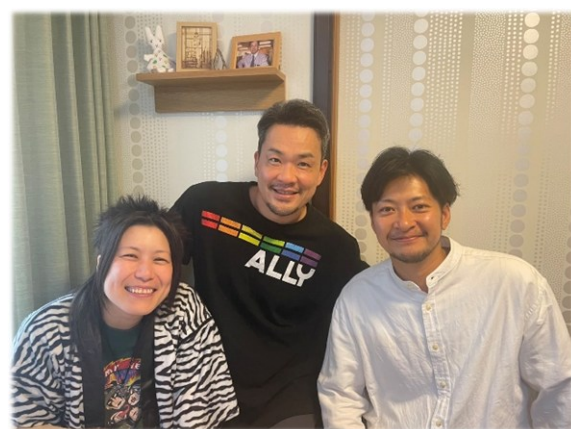
その他にも大学や温泉ホテルのチャペルタイム、教会と地域の主催するイベントなどでお話しさせていただく機会を与えられています。「資格や肩書きや権威」という意味ではほとんど何も持たない私ですが、これまでの人生、なかなかユニークな歩みをさせていただいてきましたので、経験や知識の分野横断性や独自性という意味ではもしかしたら人や社会の役に立てる「引き出し」が多いのかもしれない。これからは誰かの役に立てるように、特に「誰も私の苦しみを理解してくれない」と思っている孤独な誰かに「ああ、これで良かったんだ」という神からの慰めを与えたり、自己を肯定できなかった人の存在を肯定し情熱に火をつけるような語りが続けられたら嬉しいと思っています。

LGBTQ + 当事者から福音の意味を教えていただいた2年半

マイノリティの尊厳と権利のために信仰の確信をもって発信・活動していたことで、離れていった人や教会もありましたし、辛いことも経験してきましたが、それを埋め合わせてはるかにありあまる豊かさを神さまからいただいたと思っています。教会が語るメッセージによって排除され、傷ついてきた方々と語り合い、時間を過ごすことで、私は「排除された側の視点から」教会や福音を眼差すという経験をいただきました。解放の神学や女性神学、黒人神学や贖罪論の歴史、同性愛をめぐる神学的議論の数々を学ぶにつれ、「コンスタンティヌスのキリスト教」といわれる、「支配のためのキリスト教」が選民思想や特権意識を生み、イエスが連帯した「抑圧された存在」をないがしろにし、尊厳を傷つけてきたことを知りました。私が今まで素朴に信じてきたキリスト教がいかに少数者を苦しめ抑圧してきたかに気付かされ、悔い改める日々でした（今もそれは続いています）。

私は当事者のクリスチャンの友人たちから福音の豊かさを教えていただきました。関西学院高等部の非常勤講師でトランスジェンダー男性の藤井航氏（写真右）と対談動画シリーズ「しゅんくんとわたるくん」を今年、共に立ち上げました。藤井氏は自身の神学部時代の恩師である実践神学者の榎本てる子師（「ちいろば先生」の榎本保郎牧師の娘。2018年に55歳の若さで逝去）の教えを引きながら「メタノイア」の意味を分かち合ってくれました。「悔い改め」と翻訳されているギリシア語「メタノイア」には「視点を変える」という意味があります。これまで持っていた自分の価値観を手放すということです。自分や他者を苦しめ抑圧する価値観を手放すとき、私たちは「メタノイア」を経験するのです。メタノイアを反対から読むと「あ・い・の・た・め」になります。私たちは「自分は駄目だ、価値がない、神に受け入れられていない」という古い価値観を捨て、「愛のため」に悔い改めるのです。

ともすると恐怖を与える権威的な父親や厳格な裁判官のような神のイメージを「刑罰代償説」の福音は語りがちですが、必ずしもそれが2000年間のキリスト教神学で唯一だったわけでも主流だったわけでもありません（『勝利者キリスト』グスタフ・アウレン）。福音とは「存在の圧倒的な肯定」と今の私は理解しています。どんなジェンダーであれどんな出自であれどんな発達特性であれ、すべての人間を、さらには人間のみならず全宇宙を「あいのため」につくられた「愛の神」を信じているということは何と幸せなことでしょうか（ガラテヤ3:18、コロサイ3:20）。



寺田留架くん（左）と藤井航くんは長年の親友同士

ペンテコステ礼拝説教要約 『現代世界に働く聖霊の御業』

使徒の働き 2 章 2～3 節に「すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。また、炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。すると、みな聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話した」とあります。ペンテコステの日の出来事です。この出来事により「教会」が誕生しました（使徒 2：40～47）。イエスは聖霊を「風（ギリシャ語でプネウマ）」と喩えています。聖霊というのは「どこか捉えどころのないもの」という印象を持つ方も多いかもかもしれません。

聖霊について 3 つの誤解があると私は思っています。

1. 聖霊は伝道や牧会だけに関係がある

聖霊の働きはキリスト教の活動にのみ関係するものではありません。2008 年にインド・バラナシの田舎で 2 か月を過ごしました。そこで貧しい人々の集落で井戸を掘り、トイレを設置し、公衆衛生を教えながら福音伝道と教会開拓をしていた友人のバルー氏の働きから学ばせていただきました。バルー氏はある夜私にこう言いました。「十字架の福音を伝えているときと公衆衛生の知識を伝えているとき、私はまったく同じ聖霊の油注ぎを感じる」。伝道や教会の奉仕だけでなく、月曜から土曜のあなたの活動（仕事、子育て、家事、介護、友人との交流、病気療養）にも聖霊は確かに働いてくださっています。

2. 聖霊に導かれることと「考えること」は相反する

ティモシー・ケラーは書籍『この世界で働くということ』（288～289 頁）のなかで、聖霊の語りかけを聞くには「静かに座って聖霊からの語りかけを待つ」のではないと述べています。また、聖霊の語りかけというのは「この株を買え」とか「このように話せ」などといった託宣のようなものでもない。使徒 15：18 の「聖霊と私たちは……決めました」という決断は、初代教会指導者たちの理性と知識と熟議の結果辿り着いた結論を指しています。聖霊は私たちの思考と理性、知識と経験を用いて知恵を増し、年を増すにつれて私たちが賢明な判断をできるように助けてくださるのです。学んだり考えたりすることと聖霊に導かれることは相反するのではなく補完するものです。たくさん学び、たくさん考え、なおかつ完全に聖霊に導かれている歩み、というものがあ、それこそが聖書的な歩みなのです。

3. 聖霊に満たされるとみんな同じようになる

聖霊の働きは皆が同じようになる「一様性」ではありません。ウェスレー神学に関する書物『神の物語 下』のなかで著者のロダールは、「バベルの物語」と「ペンテコステの物語」は対照性をなすと指摘します（110～111 頁）。バベルは「ひとつの言語」で集まった様な人間たちによる「傲慢な企て」ですが、ペンテコステは謙虚な人間たちが集まり、その結果として「多様な言語」を話し始めます（使徒 2：1～3）。聖霊は規律と秩序の一様性から解放し「本来の多様な私たち」にしてくさるのです。

最後に、現代世界は「気候変動と戦争と不確実性の時代」です。「どのように祈ったらよいか分からない時代」とも言えます。そのような私たちの代わりに聖霊は「深い呻き」をもってとりなし助けてくださる、と聖書は言います（ローマ 8：19～26）。混沌の時代に、安易な終末論に飛びつくのでも「これは伝道の機会」などと早急に結論するのでもなく、ただ聖霊と共に呻くよう私たちは召されているのではないのでしょうか。（2026 年 5 月 24 日 幡ヶ谷バプテスト教会 ペンテコステ礼拝での説教より）

祈りの課題

- ◇純子・かなえ・ななみ・俊の体調が守られ、感染症、事故などからも守られるように。
- ◇入学したななみが小学校生活を楽しめるように。
- ◇性的マイノリティ当事者の方々や応援するアライの方々との連帯によって励まされてきました。6 月に関西に行きますが、そこでも今後の連帯につながる良い出会いと交わりがあるようお祈りください。
- ◇今年も「季節性の鬱病」の対策のために 8 月を北海道に「転地」して過ごします。今年も鬱の再発から守られ、良い出会いや交わりがあるようにお祈りくださいましたら幸いです。

2026 年 5 月以降の主な活動と予定

月 日	内 容	場所、補足
5 月 24 日	礼拝説教	幡ヶ谷バプテスト教会（渋谷区）
5 月 31 日	礼拝説教	シオンの群教会（中野区）
6 月 21 日	虹ジャムリアル礼拝 in 関西に参加	関西某所
6 月 24 日	支援者訪問やマイノリティ当事者との会合	関西と中部
7 月 12 日	礼拝説教	幡ヶ谷バプテスト教会（渋谷区）
7 月 14～17 日	FVI 執行役員会	万座温泉ホテル（群馬県）
随時継続的に	教会を建て上げる情報発信／訓練／啓発（エペソ 4：12）	国内各地／オンライン

* 上記は現在までで分かっている暫定的な範囲の予定です。

連絡先（奉仕・各種仕事のご依頼はこちらへ）

〒180-0011 東京都武蔵野市八幡町 1-4-18

陣内への Email shun@karashi.net 無料メルマガ、YouTube 放送、Podcast、ブログなど→「陣内俊」で検索

ご支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援をもってご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ご支援を心より感謝いたします。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」
（同封の振込用紙がご利用いただけます。）

- * 振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。
- * 振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封いたしますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。（毎月ご利用の方のために複数枚同封しています。）
- * Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。